

たぐすい

TAKUSUI
No. 651

兵庫の漁業人のための情報誌

1

January, 2011

発行 財兵庫県水産振興基金



明石海峡の日の出

新年のご挨拶

「ひょうご海の子」作品受賞者決定!!!

NEWS

平成22年度 乾のり共販が始まる

但州丸が帰港 ～県立香住高等学校の航海実習～

新年のご挨拶



年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 隆義

新年明けましておめでとうございます。

平成23年の年頭にあたり、県内JF組合員の皆様並びにJFグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

我が国経済は、デフレから脱却できない状況の中、急激な円高が進み、景気の停滞が依然続いています。また、政治情勢では、尖閣諸島などの領土問題が取り沙汰され、漁業関係者としては看過できない大きな問題となりました。

また、日本海でのズワイガニ漁に関しては、自主規制措置を強化する一方で、韓国漁船による我が国EEZ内での違法操業は悪質かつ巧妙化しており、資源枯渇が懸念される中、引き続き国に対して取締強化と資源保護対策について要望していく必要があります。

我々漁業を巡る情勢におきましても、魚価の低迷、資源の減少及び燃油価格の高騰により、極めて厳しい状況にあります。

このような状況のもと、昨年は、漁場生産力向上を目指し、海底耕耘などの漁場改善の取り組みに多くの漁業者が参加されました。現段階では、詳しい因果関係は分からないものの、ノリの色落ち防止やシラスの漁獲量の増加に好影響を与えているのではないかと推察され、これらの取り組みに「豊かな海の再生」へのヒントがあると考えます。これら抜本的な課題解決のためには瀬戸内新法整備の早期実現が必要不可欠であり、豊かな漁場再生にむけて喫緊の課題と位置付けて取り組んで参ります。

一方、国は、昨年、横浜で開催されたAPEC首脳会議において、環太平洋連携協定（TPP）について関係国と協議を進めることとし、主要国との貿易交渉では全品目を自由化の対象とする方針を表明しました。

景気回復策としてのTPPへの参加は、総論で賛成が多

数と思われますが、例えば、ノリ産業においては、国産に比べ遥かに安いノリが流通し安全・安心の国産ノリ市場が脅かされることとなります。

貿易の自由化によって不利益を被る立場としては、国は、国民を守る食料産業として、長期的なビジョンを示した上で協議をすべきであると考えます。

我々漁業者は、国民へ食料を供給する一次産業に係る長期ビジョンや対策を講じないまま、TPPへ参加することに断固反対します。

さらに、政府は、平成23年度から環境税の導入が検討されています。時を同じくして漁業は、積立ぶらすの所得安定、燃油のセーフティーネットによるコスト安定による所得補償制度を創設することとしています。特に、燃油高騰対策に関して強力な国の施策が必要不可欠であり、今後これを強く要望していきたいと考えております。

「お金を出せば輸入食料を買える時代がいつまで続くのか」不安視される中で、農薬や肥料を使わず海の恵みをそのまま享受する水産業は、「獲りながら増やす」循環型産業の利点を活かすことで、「水産業が主役になり得る時代が到来する」という説があります。このため、我々漁業者は、持続的な資源の活用を行い水産業の継続のために高度なビジョンを構築し、これを一つ一つ実行していくことが肝要です。

また、JFグループの全国運動として取り組んでいる「将来ビジョン」については、昨年11月の組合長懇談会でご承認いただいたところであり、今後、県内各地区において、このビジョンをもとにアクションプランの策定に取り組んでいただくこととなっております。本会としてもサポートして参りますので、各JFの積極的な取り組みをお願い申し上げます。

本会においても、近年の厳しい経営環境の中、中期計画による改善への取り組みと会員各位のご協力によって、所期の目的を達成することができました。将来に亘り漁業者を支えていくためには、今後、新たな経営計画の策定が必要であり、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

最後に、県内漁業者は勿論のこと、会員各位、行政当局並びに漁協系統団体のますますご発展とご健勝をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

～自立新時代に向かって～



兵庫県知事

井戸 敏三

新年あけましておめでとうございます。

21世紀の幕開けから10年、新しい社会のしくみづくりが模索されています。デフレ経済下で経済雇用の停滞が長く続き、先行きに対する閉塞感が漂っています。まずはデフレ円高対策を適切に実行し、あわせて社会的枠組を再構築して将来不安を払拭するとともに、多様な地域が個性を発揮して元気な地域づくりを進めなければなりません。そのためにも、短期、中長期を見極め、直面する課題を明らかにし、将来ビジョンを描き、シナリオを準備して力強く実行する必要があります。

第1は、経済雇用対策。景気低迷と急速な円高を

克服し、頑張る企業を応援します。また、整備が進む京速コンピュータ、X線自由電子レーザーなどの科学技術基盤と企業立地の優位性を生かし、兵庫産業の競争力を高めます。

第2は、安全安心で質の高い生活環境。風水害や地震に強い県土づくり、地域医療や健康福祉の基盤づくり、充実した子育て環境づくり、街の賑わいづくりなど、生活の豊かさを確保します。また、山陰海岸ジオパークをはじめ、広い県土の豊かな自然と人とのふれあいを生かし、環境優先兵庫の魅力を高めます。

第3は、自立新時代への前進。関西広域連合発足を契機とした関西の自立、行財政構造改革と長期ビジョンの推進による兵庫の自立、人と社会の協働による地域の自立をめざします。

自ら考え行動する人々が拓く新時代に向かって、変化に負けない元気な兵庫を創っていきましょう。

新しい 自立の時代 創らんと
人と地域が 絆基いに



新年明けまして
おめでとうございます

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 峰人

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本県漁業は、近年、漁場環境悪化等による影響で低調に推移しておりますが、冬の到来とともに瀬戸内海の高野・カキ養殖、日本海の沖合底曳き網が最盛期を迎え、本年においては、水揚げの一段の好調を切に期待するところであります。

さて、現在、水産業界は新たな局面を迎えつつあります。漁業の窮状に応え、「漁業所得補償制度」が創設されましたが、一方で、政府は、関税撤廃により漁業の壊滅的な影響が避けられないTPP参加を視野に入れた基本方針を決定しました。

これに対し、平成22年11月9日「EPA基本方針に対する決議」により漁業者の総意として断固反対を表明したとおり、第一次産業に対する施策は一貫性を欠いていると言わざるを得ません。

また、一昨年の「JF全国代表者会議」において、新運動方針「JFグループ組織・経営・事業戦略」が採択され、

鋭意「県域ビジョン」策定に取り組んでいるところでありますが、信漁連においても、事業基盤が縮小する現状を認識したうえで課題を整理し、JFマリンバンク基本方針に基づく『信用事業安定運営責任体制（あんしん体制）の確立による「浜の暮らしを守る信頼の金融」の実現』を信用事業改革ビジョンとして掲げ、「健全性の一層の強化」、「事業推進力の強化」、「専門性の高い人材育成」及び「事業・組織戦略の策定」を重要取組事項として、地域に密着した漁業金融機能を発揮してまいります。

さらに、金融円滑化に資する適切な対応と漁業融資機能強化に向けての漁業金融相談員の設置についても整備してまいります。

漁業環境は厳しさを増す状況下ではありますが、役職員一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県漁業のさらなる発展と皆様方のご健康とご多幸を心より祈念申し上げ新年のご挨拶いたします。





年頭のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事

上村 廣一

県下漁業関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新年をお迎えになられたことと存じます。

さて、世界経済はもとより日本経済も一向に明るさの様相が見えてきませんが、昨年を振り返ってみますと、世界的にはギリシャ発信用不安による株価の大暴落に始まり、韓国哨戒艦爆破事件やホルムズ海峡における石油タンカー爆破事件並びに米国史上最悪と言われるメキシコ湾原油掘削施設の爆発事故や世界的な自然災害等々、更に11月末には北朝鮮による韓国延坪島への砲撃から、今なお一触即発の極めて高度な緊張感が漂っています。

我が国をみましても、年明け早々から献金問題や沖縄普天間基地の移設問題等で大きく混乱するなど、4月には独法を中心とする事業仕分け第2弾が開始される中で、宮崎県における畜産関係の口蹄疫問題も発生しました。6月の総理・民主党幹事長の辞任交代劇に続き、7月には注目の参議院選挙が行われましたが、政権与党である民主党が大敗する中で一部新党の躍進には目覚ましいものがありました。その後9月には尖閣諸島周辺での船舶衝突事件に端を発した領有権問題の再燃やその後のビデオ流出問題など、国内はもとより今なお中国との関係は釈然としなないものがあります。

このような中で、我が国は依然として極端な円高・株安が続いており、いよいよ国の借金も900兆円を超えた今、国民1人当りおおよそ710万円もの借金を背負っている計算になります。このままでは恐らく本年度末には1,000兆円を突破するものと見られています。いずれにしても、国が破綻するようなことだけは絶対にあってはならないこと

であり、目先のことだけにとらわれず、子々孫々に至る国の将来をしっかりと見据えた中で、よりよい政策を見出して頂きたいものであります。

我々漁業関係におきましても、昨年ののり生産はかろうじて百億円を超えましたが、慢性的な色落ちや極度の相場低迷等からは依然脱しきれておりません。また、但馬の漁業についても時化のために出漁できない日が長期間続いたことや、相場的にも大きな好転が見られなかったことなどから、非常に厳しい現実を強いられています。更に、春のイカナゴ漁については量的にはまずまずであったにも拘らず、相場的には前年の半値或いは漁期後半には3分の1程度に落ち込んだことからみますと決して豊漁とは言えませんが、幸いにも秋のチリメン漁が予想以上に豊漁であったことは多少救われた感が致します。

このようなことから、私どもの共済金も多額の支払になっておりますし、一方で平成20年度から推進しております「積立ぶらす」についても億単位の払戻が発生していることからみますと、深い減収は「ぎょさい」で、浅い減収は「積立ぶらす」で補てんされることによって、漁家経営の安定に多少なりとも貢献できているのではないかと考えているところであります。

ところで、漁業関係の所得補償対策で進展があったことはご承知の通りであります。大まかには、ぎょさい掛金の国庫補助の増大や、積立ぶらす加入要件の大幅緩和並びに積立金と国庫の負担割合を現行1対1から1対3にするものであります。これはこれで一定の評価が得られるものの、ただ一方で、農林水産業を壊滅的大打撃に追い込もうとするTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加については、断固阻止しなければならない大問題であると考えているところであります。

これらのことから、新年度も色んな意味で厳しい状況になることが十二分に予想されますが、我々共済組合役職員一同は、県下漁業者の更なる経営安定に貢献すべく一丸となって事業推進してまいり所存でありますので、どうか倍旧のご理解とご協力を賜りますよう切にお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部
農林水産局水産課長

藤澤 崇夫

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

さて、昨年後半には日本近海で様々な事件や動きがありました。9月に尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁巡視船に衝突、11月にはロシア大統領の北方領土領土後島訪問、北朝鮮による韓国延坪島の砲撃など領土を巡る事件や動きが続きました。特に北朝鮮、韓国の問題は、日本海側

への波及等、本県但馬地域の漁業にとっても大変心配な事案です。

国内においては、昨年10月、政府がTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加検討を表明しました。農林水産省では、TPP参加によって農林水産業が多大な影響を受けると試算していますが、県においても、国の動向を見極めるため、3月に策定する予定であった新しい「ひょうご農林水産ビジョン2020（仮称）」の策定を延期するとともに、TPPの協議にあたって、食料自給率の向上や持続可能な農林水産業を育てるための対策をとるよう国に求めてまいります。

そして、本年4月からは資源管理と漁業共済を組み合わせた漁業所得補償制度が始まりますが、県では漁協や漁協系統と連携を図りながら、新しい制度の円滑な導入に努めてまいりたいと考えています。

さらに、従来から取り組んでいる資源培養型水産業推進のための漁場整備や養殖業の振興、漁業経営の安定化

や水産物の消費拡大、豊かな海の創生に向けた取組にも力を入れ、水産物の振興を図ってまいりますので、皆様におかれましても県民への安全で安心な水産物の供給について引き続き尽力いただきますようお願いいたします。

また、JFグループでは昨年11月に、これからの組織や事業を検討する県域ビジョンを策定し、今後、具体的な内容を位置づけるアクションプランを策定される予定となっております。



年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長

坪内 稚和

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、猛暑による水産物への影響も少なからずあるのではと危惧をするなか、今のところ漁獲量は概して、「辛うじて」と言ったところでしょうか。

また、漁港関連予算は、平成23年度予算水産庁概算要求を見れば防波堤・物揚場などを整備する水産基盤整備については、

- ①漁業所得補償対策等の創設に伴い対前年度比88%
- ②水産環境整備と流通拠点漁港における衛生管理対策の重点化とこれによる小規模漁港の整備抑制

いますが、漁業者の皆様が将来も安心して操業を続けられるよう、この取組が着実に実を結ぶことを期待しております。

新たな年の始まりとともに、本県水産業が益々発展し、未来に向かって力強く前進されますことと、新しい年も豊かな海の幸に恵まれますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

など「辛うじて」と言うよりも昨年に引き続き「厳しい」と言う状況となっております。

また、「大型ノリ乾燥機」などの設置を支援する「強い水産業づくり交付金」については、

- ①対前年度比70%（ただし、「大型ノリ乾燥機」等は、別の事業メニューへ移行）
- ②荷さばき所、冷蔵庫などの共同利用施設については、新たに産地協議会を設置し、協議会による「産地水産業強化計画」の策定が前提

など、制度は変わるものの「そこそこ」と言ったところではないでしょうか。

一方、秋に行われたAPECでTPPと言った聞き慣れない単語も飛び出し、今年の水産業を取り巻く状況はこれまでと同様、それ以上に変化の大きな年となることも予想されます。

いずれにしても、これまで度重なる「時化」を乗り越えて来られた様に、今年も来るかも知れない「大時化」も乗り越え、安全でおいしい水産物をより多くの食卓へ届けて頂くことを期待しまして、新年のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター 所長

反田 實

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては気分新たに清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

水産技術センターでは、本年も引き続き本県漁業が抱えている様々な課題について、技術的な立場から課題解決に向けた取り組みを進めてまいります。

現在、瀬戸内海の生産現場では養殖ノリの色落ちと漁獲量の低迷に直面しています。この原因として栄養塩濃度の低下とともに、海の生産力の低下が懸念されているところですが、そこで、昨年度から近隣府県や大学と共同で、海の栄養塩管理に向けた調査研究をスタートさせました。また同時に、浄化センターの栄養塩管理運転やため池からの栄養塩供給の取り組みに支援をしていきます。一方、海の生態系の健全化に向けてアサリやウチムラサキなどの二枚貝類の資源増大技術の開発や、浅場造成によるカレイ類幼稚魚の生息場の拡大に向けた試験を進めます。また、今後の漁業生産構造の変化に対応すべく、ヒジキなどの新

しい養殖技術の開発のほか、ノリの優良品種開発、カキ養殖技術研究にも取り組む所存です。イカナゴ、シラスについては漁況予測精度の向上に向け他府県や国との共同研究を進めるべく準備を進めています。

日本海では、昨年、幸いにも大型クラゲの大量発生はありませんでしたが、引き続き、出現状況や予測情報の迅速な提供のほかに、被害低減のための沖合底びき網の漁具改良に取り組みます。新漁業調査船「たじま」が昨年度から本格的に稼働し、現場での調査研究能力が飛躍的にアップしました。その機能をフルに活用して、漁期前調査など漁業者の皆さまに役立つ情報の発信に努めてまいります。また、少年水産教室のほか試験操業に漁業者も乗船してもらおうなど、地域に密着した活動にも努力していきたいと思っております。ズワイガニ資源は一時期の低迷を脱しつつありますが、その流れをより確実に安定なものとするべく、沖合漁場の造成のための調査研究を進めます。また、沿岸漁業については、アカウニを地域の産物とするべく資源調査や加工法の研究を行います。近年漁獲量が増大しているサワラ資源については加工利用も含めた総合的な研究を引き続き進めてまいります。

以上、今後とも水産業の発展に鋭意努力して参りますので、昨年に引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとって実り多い年となりますよう祈念申し上げて、新年のご挨拶と致します。



2011年 年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長

服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。

漁業者の皆様並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年は、わが国漁業・JFグループにとり、様々な出来事があった年でありました。

2011年度は、JFグループが最重要政策に位置付けて要望してまいりました漁業経営安定対策として、資源管理に取り組む漁業者を対象に、漁業共済制度と積立ぶらすを抜本的に見直し・拡充した新たな収入安定制度が実現の運びとなりました。今後は、昨年4月から措置されている燃油等にかかる漁業経営セーフティネット構築事業とともに、この制度の普及・活用に向けて全力で取り組んでまいります。

また、昨年10月のTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加問題については、EPA基本方針策定に係る要望書をとりまとめ、11月の「全国漁連（県漁協）・信漁連会長、全国水産物輸入対策協議会合同会議」の決議に基づく政府・与野党に対する要請行動を行い、更には「TPP交渉への参加に反対し日本の食を守る緊急全国集会」において、食料の安定供給・確保についての明確な方針が示されない中で、例外なき自由化を強いるTPPへの参加等へ向けた

協議が開始されることは、国境監視をはじめとする多面的機能、さらには、世界的な水産資源の管理にも重大な影響を与えることから、反対の意見表明を行ったところです。

世界的に貿易の自由化が進む懸念がある中、今後、関係各国との協議や農林漁業強化策など国内改革の方向性によっては、TPP参加に向けた議論の進展がさらに加速する懸念があることから、予断を許さない状況にあります。よって、引き続き情勢を注視するとともに、昨年11月に閣議決定した「包括的経済連携に関する基本方針」において、本年6月をめぐっている「食と農林漁業の再生推進本部」による基本方針の策定に向け、我々JFグループの立場をしっかりと主張し、強力な運動を進めてまいりたいと考えております。

また、新運動方針「JFグループ組織・経営・事業戦略」の2年度目となる今年度は、初年度に各県域で策定に取り組んだ、事業別将来ビジョン、県域ビジョンの実現に向けた具体的な取り組みのスタートとなります。新運動方針の4つの重点取組事項（①組織・事業再編と人づくり、②経営改革に向けた取り組み、③事業改革に向けた取り組み、④協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献）を実践に繋げ成果を挙げる必要があります。

JF全漁連といたしましては、自らの経営再建の前倒しでの達成を目指しつつ、山積する諸課題に立ち向かい、施策の実現に向け役職員一丸となって一層の努力を重ねてまいります。

この1年が、皆様方にとり良い年でありませう、また、操業の安全と一層のご繁栄・ご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。



60周年をバネに 目標達成へ

全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長

吉岡 修一

新年あけましておめでとうございます。平成23年の年頭にあたり、浜の皆様にご挨拶を申し上げます。また、昨年は本会の事業活動につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜わり心から厚くお礼申し上げます。

さて、わが国経済は、ゆるやかな回復基調にあるものの、海外経済の減速や耐久消費財に関する政策効果の反動といった要因に加え、このところの円高により景気の停滞感がより強まっています。生損保業界にあつては市場縮小に景気低迷が追い討ちをかけ、新規契約の頭打ちと保有契約量の減少が続いています。いっぽう、郵政民営化に逆行する政策がとられつつあり、郵便保険事業の民業圧迫が懸念されています。

また、漁業・漁村においては、漁業就業者の高齢化、魚価の低迷等の構造的な問題に加え、昨今の資源・原材料価格の高止まり、そして金融危機に端を発する世界的な景気悪化などの影響を受け、さらに厳しさを増しています。このため、JFグループではJF全国代表者集会において採択された運動方針「JFグループ組織・経営・事業戦略（2010～2014年度）」に定める将来ビジョンの実現に向けた取り組

みを、まさにすすめているところであります。

このような状況のもと、JF共済は23年、「海といっしょに。浜といっしょに。一JF共済3か年計画（平成20～22年度）」の総仕上げのときを迎えるとともに、次期3か年計画への足掛かりとなる重要な年でもあります。このため、この計画に掲げる各種目標の達成に向け、諸施策の実践に総力を挙げて取り組んでまいります。

とくに、JF共済が60周年を迎えることから、これを契機に推進機運の盛り上げを図り、保有契約量の維持・伸長を最重要課題に、「ふれあい型推進」を第一に全戸推進と取り組み、満期更新契約、解約防止およびJF共済未加入世帯の解消に邁進することで所期の加入目標の達成と保有契約量の拡大を期さなければならないと考えます。

いっぽう、JF共水連においても22年4月施行された保険法の遵守、金融ADR法制への対応等、ご契約者保護の強化をはかってまいります。また、マネジメント改革の推進や内部留保の回復による純資産の充実等、事業基盤の強化と経営の健全性の確保に邁進する所存であります。

今後もJF、推進本部、JF共水連、それぞれが果たすべき役割を着実に実行し、使命を果たしてまいりたいと存じますので、引き続き皆様の特段のご高配を賜りますよう、切にお願いを申し上げます。最後になりましたが、わが国漁業の明るい未来とJFグループがますます発展することを祈念いたしますとともに、皆様方のますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

JF兵庫漁連 第35回 通常総会開催

JF兵庫漁連

12月9日(木)、兵庫県水産会館にてJF兵庫漁連の第35回通常総会が、兵庫県農林水産局藤原道夫局長、農林中央金庫大竹支店長を来賓に迎え開催されましたので、その概要を報告します。

開会にあたり、山田会長より、「県漁連改革として、指導賦課金をご負担いただく中で、石油等は1円でも安く供給できるような体制づくりを進めている。どこまで改革すればよいのか見通しが利かないが、皆様にご指導いただきながら進めてまいります。環太平洋連携協定(TPP)に対しては、去る11月9日の全国漁連会長会で、私はノリ生産者代表として意見を述べ、さらに、10日の全国緊急集会後、自民党本部において国の施策について問いただし、TPP参加への反対と漁業の窮状を訴えたところである。今後と



プロジェクターを使った議案説明



山田会長の挨拶

も、県当局をはじめ、関係機関ならびに会員、系統団体各位の格別なるご理解とご協力を賜りたい。」と挨拶され、次の事項が可決決定されました。

なお、今回から議案説明は、分かりやすくプロジェクターを使用しました。

第1号議案	第35期貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表および事業報告の承認について
第2号議案	第36期事業計画および収支計画の設定について
第3号議案	指導事業賦課金の徴収について
第4号議案	第36期における借入金の最高限度について
第5号議案	第36期における余裕金の預け入れ銀行について
第6号議案	役員報酬の支給について

● 事業概要

今期の事業実績は、原油市況が上昇傾向で推移したこと、長引くデフレによる低価格志向により当会事業運営に影響が大きく、逼迫した経営状況となりましたが、会員・所属員の負託に応えるべく、次の通り取り組みました。

石油事業は、不安定な石油動向の中、配送の効率化によってコストを削減し、員内価格低減化に努めました。

のり海藻事業は、新しい得意先の開拓や、優良品種の開発に努めると共に、のり販売戦略の抜本的な見直しを行う等、積極的に兵庫のりの消費拡大と販売強化に取り組みました。

資材事業は、買い替え時期が明らかな商品等の取り纏

め受注を行い、仕入れを有利に行うことにより、供給価格の低減化に努めました。

流通加工事業は、会員・所属員との連携を深め「浜値の向上」を目指し、(株)ひょうごぎょれん販売と協力して、新たな流通システムの探求と販路拡大に取り組みました。また、シートクラブと協力して実演販売を行い、新たなニーズの開拓に努めました。

指導事業は、豊かな漁場再生、魚食普及活動および新たな儲かる漁業の構築をすべく、漁政活動を推進すると共に、省燃油実証事業や輪番休漁事業など燃油高騰対策をはじめとする補助事業の普及に努めました。

● 事業計画

漁業従業者の減少、漁業生産活動の縮小・停滞傾向を直視し、経営理念に則りつつ5ヵ年中期経営計画の達成に向け、本会の組織・事業の根本的改革に取り組みます。

一般管理部門では、会員のための組織作りを目指し、人づくりや合理化の推進に努めます。また、水産会館を入居している系統団体と協力してPRし、広く県民も利用できる施設として、会館管理運営に努めます。

石油事業は、事業所間の連携強化によりコスト削減を図り、員内価格低減化に取り組み、柔軟な安全供給に取り組みます。

資材事業は、供給数量のまとめを実施する方策を探り、一括仕入れの仕組みを構築し、供給価格の低減化に努めます。

のり海藻事業は、のりの安定生産のために、色落ち対

策として、施肥技術の確立、海底耕耘等の取り組み等を行います。また、兵庫のりブランドの復活を目指して、栄養塩増強対策ならびに二期作や漁業有効利用の奨励に努めます。

流通加工事業は、会員との連携強化を行い、未利用魚介藻類の商品化など、新たな流通の仕組みづくりに取り組み、本県産の鮮魚や加工品の販路拡大に努めます。

指導事業は、JF組合長会議・JF参事会議等を通じて意見交換を行い、浜との一体感の醸成を図ると共に、豊かな漁場の再生に向けた活動を展開します。また、「SEAT-CLUB」活動の実施により、魚食普及、地産地消を進めるため、一般消費者を対象とした料理教室等を行い、兵庫の海・魚をつなぐ窓口として活動を展開します。

平成22年度 乾のり共販が始まる!

平成22年度の第1回 乾のり入札会が、12月18日(土)、JF兵庫漁連のり流通センター(加古郡播磨町)にて開催されました。



張り詰めた空気が漂う見付場

当日は約130名(参加商社52社)の買受人が全国から集まり、朝早くから会場は活気づきました。今漁期は、水温は漁期が近づくとつれ平年並みまで降下し、栄養塩にあってもほぼ問題のないレベルで摘採期を迎えたので、製品の色調は良く、柔らかくて新芽らしいものが多く見受けられました。しかし、時化の影響により新芽が飛ぶ等で生産量は伸びず、共販の出品量は予想を下回りました。

なお、本年度から昨年まで共販予定数14回で行っていたところを、13回に変更して行われるようになったため、今まで第1回共販には出品が無かった東播地区・淡路地区からの出品も多く出揃いました。

今後は業務筋中心の生産に入り、いよいよ本県のノリ漁期の最盛期を迎えます。

但州丸が帰港 ～ 県立香住高等学校の航海実習～

兵庫県立香住高等学校 海洋科学科 第2学年オーシャンコースの15名は、マグロ延縄漁業実習のため、去る10月28日に実習船「但州丸」(499ト)に乗り込み香住港を出港、下関～那覇～パラオ～第5海区～三崎港の順で航海を行っていましたが、この度予定の実習を終え、帰港途中の神戸港にて帰港式が行われました。

式当日の12月13日(月)は朝からあいにくの雨模様だったため、式は10時より神戸港中突堤に停泊中の但州丸船内で行われました。生徒の他、同校の関係者・県・系統団体および生徒の保護者を合わせ約40名が集まり、航海実習から帰ってきた生徒たちを迎えました。式に



実習生15名と実習船「但州丸」

において山田隆義 JF兵庫漁連会長から「漁業を取り巻く環境は厳しいものがあるが、今回の

経験を生かして水産業界において大いに活躍してもらいたい。」と祝辞を述べられ、また実習生代表から「素晴らしい航海中の景色や、共に学んだ仲間は一生涯の宝物です。今回の実習で得た経験を生かし今後頑張っていきたい。」と力強い抱負が述べられました。

この後、但州丸は14日に神戸を出港、17日(金)に香住港に入港し、全行程6,874マイル、50日間の実習を無事終えました。



JF兵庫漁連 山田会長の祝辞の風景

淡路市で“かいぼり”

～ JF仮屋・森の取組み～

ため池の“かいぼり”（池ざらえ）は、毎年秋に土手の保守点検や貯水量増加のため行われていました。そして、この作業で排出される池の底の水や堆積物は窒素・リンを多く含み、海への栄養供給を行っていると考えられています。近年、人出不足ということであまり行われなくなった、この“かいぼり”をお互いのために行おうという趣旨で、漁業者と農業関係者が連携した取組みが平成20年から行われています。



かいぼりの作業風景



今回、JF仮屋・森の両組合の漁業者は、地元農業関係者、行政と共に「浦川地域ため池・里海保全協議会」を11月に発足させ、12月10日（金）に淡路市にある桜が淵池（貯水量8400立方メートル）で、同市河内地区と小田地区の皆さんと一緒に「かいぼり」を行いました。

この池は海まで4kmほど離れた山中にあり、準備のためすでに水は抜いてあったため、さらに上流にある2つの池から水を放水してもらい堆積物の栄養分が海まで流れ出るようにしました。作業は正午過ぎから行われ、参加者約50名は重機を使って取り除いた堆積物を少しずつ水に混ぜ水路から川に放水しました。また、ため池の保全を行うため、池の周りの竹林も伐採しました。今後、このような地域全体の取組みがさらに発展し、より豊かな里海づくりが展開されることを願っています。

淡路地区で「魚の捌き方教室」開催

～ 淡路地区漁協青壮年部連合会の取組み～

JF兵庫漁連

去る12月11日（土）、淡路地区漁協青壮年部連合会主催の「魚の捌き方教室」が洲本中央公民館で行われました。

この教室は、同連合会が一般消費者に淡路の魚の良さをもっと知ってもらおうと料理教室など様々なイベン



「魚の捌き方教室」の様

トを実施していく中、より多くの会員が「魚の捌き」を習得する必要があると考え、東由良町漁協青年部 渡辺 直氏を講師に、同連合会員や関係者ら15名が参加し開催されました。当日の講座は「アジの三枚卸し」で、日頃、包丁を持つ機会が少ない方は悪戦苦闘されていましたが、皆、無事に料理を完成させていました。

「消費者に魚を食べてもらわないと、我々の商売は成立しない。」と渡辺氏が語っており、このような取組みから、魚食普及活動の現場で活躍される方が増え、より一層の消費拡大へと発展していくことを期待します。



平成22年度

「ひょうご海の子」作品受賞者決定!!

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連では、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育ててもらうために、「ひょうご海の子作品」(絵画・作文)を県下の小中学生を対象に募集し、絵画3,379点、作文202点のご応募をいただきました。

10月28日に絵画部門、11月26日に作文部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定いたしましたのでご報告いたします。

【絵画部門】 (敬称略)

賞名	学校名	学年	お名前
兵庫県知事賞	加古川市立加古川小学校	4	原 拓未
兵庫県教育長賞	姫路市立香呂小学校	2	大谷 駿介
JF兵庫漁連会長賞	三田市立けやき台小学校	5	森下 怜哉
	明石市立江井ヶ島小学校	3	前田早陽子
JF兵庫女性連会長賞	神戸市立本山中学校	1	小栗 優実
	神戸市立本山第三小学校	1	丹波 亮介
	南あわじ市立御原中学校	1	濱田 雄大
JF兵庫信漁連会長賞	伊丹市立南中学校	1	大道 ほの
	姫路市立置塩小学校	5	三村 達矢
	三木市立三木中学校	3	藤江 知穂



- 受賞作品は、兵庫県水産会館 展示スペースにて平成22年11月30日～平成23年3月31日まで展示を行います。
- また、JF兵庫漁連HPでも受賞作品(佳作含む)を紹介しています。



＜兵庫県知事賞＞

加古川市立加古川小学校 4年 原 拓未



＜兵庫県教育長賞＞

姫路市立香呂小学校 2年 大谷 駿介

【作文部門】 (敬称略)

賞名	学校名	学年	お名前	作品名
兵庫県知事賞	香美町立香住第一中学校	1	山本 真生	おじいちゃんの家
兵庫県教育長賞	南あわじ市立辰美小学校	2	西田 拓海	おとうさんと太刀魚漁
JF兵庫漁連会長賞	姫路市立白鷺小学校	1	長瀬 奏良	大好きな海
	姫路市立豊富小学校	4	柴田 遥	漂流ゴミ
	明石市立二見小学校	5	太田 皓貴	「母なる海」は生きている
JF兵庫女性連会長賞	相生市立中央小学校	2	出口 智佳	きれいなうみがいいな
	淡路市立石屋小学校	4	高田 波奈	りょうし町岩屋
	洲本市立洲本第一小学校	6	吉野沙弥香	「大切な海」
JF兵庫信漁連会長賞	たつの市立小宅小学校	4	瀧北 智衣	海はおいしい
	朝来市立生野中学校	1	楠 晃徳	守らなければいけない海

- 例年どおり、海の子作文集を発刊する予定です。
- 現在、JF兵庫漁連HPに受賞者(入選・佳作含む)と上位2作品を掲載中です。

「淡路島たまねぎ」 地域団体商標取得を店頭でアピール 神戸市で販売促進

JAあわじ島は11月26日～28日の3日間、神戸市内のコープこうべシア店で地域団体商標を取得した「淡路島たまねぎ」の宣伝をした。POP（購買時点広告）やレシピに地域団体商標登録をしたことを記載し、店員が来店客に説明。JAの倉本満之組合長は「淡路島産野菜の販売強化のため、大消費地での積極的な販売促進活動で消費拡大を図りたい」と話した。

同店の「ひょうご発野菜まつり」に参加しての取り組みで、この日はタマネギの他、レタスなど淡路島産の野菜を宣伝した。

野菜売り場では、タマネギを使った料理の試食やレシピを配るなどして淡路産をアピール。

特にタマネギは、10月26日に「淡路島たまねぎ」として地域団体商標が特許庁から承認されたこともあり、大消費地でのPRに勢いをつけた。同JAのキャラクター「サンちゃん」も登場。

「淡路島たまねぎ」を含む1000円以上の購入者には抽選会に参加できるなどの企画も盛り込んだ。



「淡路島たまねぎ」をPRする
JAあわじ島のマスコット「サンちゃん」

歌あり笑いあり 「大丈夫だよ、がんばろう！」 講演会を開催

コープこうべは、昨年2月に兵庫県と「がん検診受診率向上推進協定」を締結。この間、組合員様や職員にがん検診の受診を呼びかけてきました。その一環として、12月7日（火）東灘区のうはらホールにて、(株)コープエイシスと共催し、がん検診受診率向上の講演会を開催しました。

第1部では兵庫県健康福祉部の田所昌也さんが、がんの罹患状況や県民の検診受診率が全国でも下位にあること、受診率向上のための取り組みなどについて報告。

第2部は、厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」のメンバーでもあるタレントの山田邦子さんによる講演。出演したテレビ番組をきっかけに、乳がんを自己検診で見つけてから手術までのエピソードをユーモラスに語り、「乳がんは、早期発見で99パーセント助かります。今日来てくれた人は、ぜひ周りの人に受診を呼びかけて」と、受診の必要性を訴えました。さらに、「笑ったり、歌ったりすると免疫力がアップするそうです。今日ここで会ったのも何かの縁、一緒に歌いましょう」と、客席を3つのグループにわけ、『春が来た』『夏は来ぬ』『雪』を輪唱。最後自ら作詞した『しあわせの青い鳥』を披露し、会場は大きな歌声と拍手に包まれました。

また、会場入口には乳がんの触診モデルやがんを知るためのパネル展示、山田邦子さんの著書の販売などがあり、多くの組合員が足を止めて熱心に見ていました。



山田邦子さんの講演風景



旬に想う

写真と文
遊方子

喧嘩独楽

◆孫の遊び道具を探して箱詰めを解いたら、独楽（こま）が数個出てきた。ずっと以前、香寺の玩具博物館で買った品で、長らく所在不明になっていたものだ。糸引き独楽がある。これは心棒の下部に紐を巻いて紐を手前に引くと、独楽自体が回る仕組みで、形は通常の独楽と同じだが、動力に紐を使うアイデアが生きている。孫にせがまれ、何度も何度も回す仕儀になった。独楽の原初の形は「捻り独楽」で、木の実や木製のコマを掴まんで回す。素朴な形が各地に見られる。独楽がよく回り立っているだけに見えるのを「独楽が澄む」という。

◆コマは中国で発生し、朝鮮を経て日本へ伝わった。古くは朝廷の儀式用として神仏会や相撲節義の余興として曲独楽が演じられたという。江戸時代、菓売りが客寄せ芸として路傍で曲独楽を見せた。明和から天明の頃、大坂と江戸で興行化された独楽芸が人気を博し、幕末には、大阪で大活躍した軽業師の早竹虎吉が、独楽を宙に飛ばして天神伝説《飛び梅》に準（なぞら）えて大当たりを取った。その独楽を操る様子が、鮮やかな色彩の錦絵になって残っている。

◆通常、独楽は心棒に紐を巻いて引いたり、独楽本体に巻き付けて回したりするが、鞭で独楽を叩いて回す方法もある。独楽が回ると表面に塗った同心円の赤や緑の縞模様が美しく、誰よ

りも長く回して得意になったものだ。『喧嘩独楽』は、その技を競うことから生まれた。相手の独楽に叩きつけるように回し、相手の回転を止めたら勝者になれる。これに似たものにペーゴマ（貝独楽）があり、関西ではバイという。巻き貝のバイを半分に切断、貝の底面に鉛を詰め上を粘土で覆った事が語源で今は鉄製。紐に二つの結び目を拵えて、コマの尻の上で一直線になるように紐をグルグル巻き上げて回すのである。

◆バケツを逆さまに置いて厚手の布地をかけ、ペーゴマを回すトコを拵える。その上で勝敗を競って独楽の取り合ったものだ。強い独楽は宝物になった。鉄製ペーゴマは、戦時中は鉄不足で瀬戸物やガラス製に姿を変えた。狭い路地で夢中になって遊んだものだが、これは一種の賭け事だから教育上は良い訳がない。学校名で禁止令が出たりしたが、ヤメロと言われ止められるものではない。勝敗のある遊びは面白く誰もが夢中になる。現代、大人を夢中にさせるパチンコやスロットも、その延長線上にあるものだと思う。子供らの遊びもすっかり変わり、主流は電池やICを使ったゲーム機を使って互いの操作を競い合う。遊戯の内容も、時代と共に随分とサマ変わりしたものだ。



「心洗」(魚住住吉神社にて)

大輪田塾だより

「養殖業」と「海上安全」

12月22日(水)に行われた大輪田塾は、「養殖業概要」と「海上安全について～人はなぜライフジャケットを着用しないのか～」の2講座が開催されました。「養殖業概要」については(社)全国海水養魚協会 稲垣光雄専務理事に講義を頂き、海水魚類養殖の基礎知識の他に、消費者への養殖魚に対する理解や、安心・安全性のPRを行う活動などが紹介されました。塾生からは養殖魚普及に係るPR活動が、今後の魚食普及活動に繋がるのではないかと感じたようで活発な議論がなされました。「海上安全について」では神戸運輸監理部 筒井宣利課長より、人間の行動特性からライフジャケットを着用しない理由を考え、集

団演習において、どうしたら着用が推進できるかを自分たちで答えを導き出そうとする講座が行われました。講座の中で自ら考え、意見を発表することでライフジャケット普及以外にも得られるものがあつたようです。



稲垣専務による「養殖業概要」



筒井課長による演習の様子

表紙の言葉



「明石海峡の日の出」

淡路側から見た「明石海峡の日の出」です。

漁業を取り巻く環境が厳しさを増し、世間でも暗いニュースが多い中、この写真のように今年は明るく、将来に向けての希望の光が差す一年となりますように……。

この日の出に豊かな海、安全な海で、将来に向けて希望の光が満ち溢れる一年となることを祈念します。